



平成15年4月 石川県地域リハビリテーション支援体制整備推進事業スタート

生き生き生活いじ作戦

目指すもの

- ア 高齢や障害のある住民が、安全にいきいきとした生活が送れるために、医療や保健・福祉及び生活に関わる人々が連携を取り、リハビリテーションの立場から行う活動。
- イ その具体的活動として、市町村で適切な自立支援（相談・指導）が受けられ、寝たきりや要介護状態を予防・改善するための支援体制の整備。

対象者

- ア 脳卒中や骨折などの疾患により在宅での日常生活上に障害がある方
- イ 加齢により日常生活上の障害がある方
- ウ 要介護状態であるが、本人を含め家族やその支援者において日常生活の自立支援方法が知りたい方

なお、当面は40歳以上の方を対象としますが、40歳未満の障害児・者については、平成15年4月からの市町村支援費制度の導入後の状況を踏まえ、対象者の範囲等指針の見直しを検討します。

基本方針

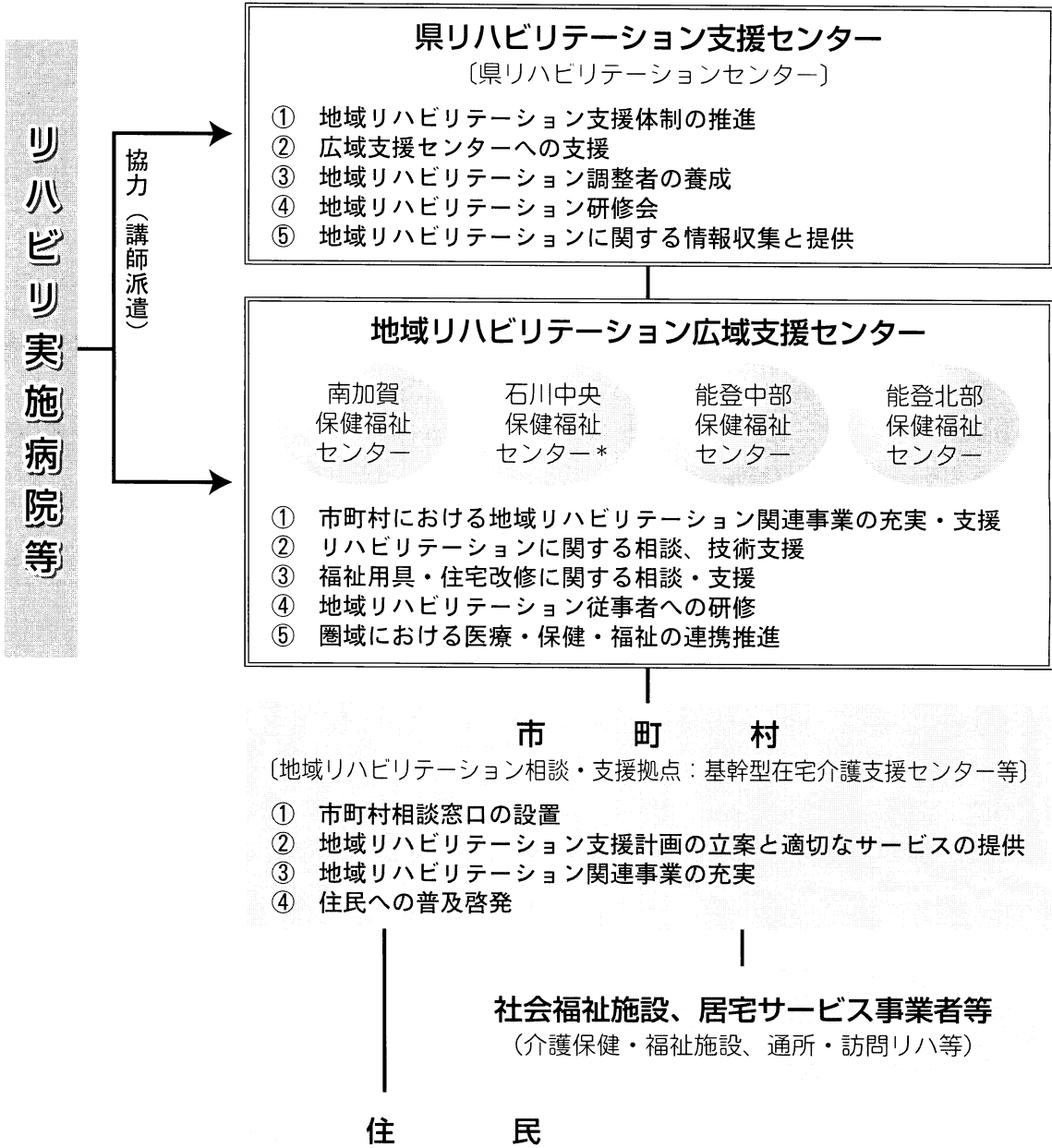
- 1 地域リハビリテーション支援体制の整備
- 2 地域リハビリテーション調整者の養成
- 3 地域リハビリテーションの情報提供システムの整備
- 4 地域リハビリテーション従事者への研修
- 5 地域リハビリテーション関連事業の充実

石川県地域リハビリテーション支援体制

県地域リハビリテーション推進検討会議

〔構成：学識、医師会等職能団体、市町村、当事者等〕

- ① リハ連携指針の検討
- ② 県リハ支援センター、広域支援センターの指定にかかる協議
- ③ 地域リハ推進の円滑化協議等



* 石川中央保健福祉センターに身体障害者更生相談所併設

地域リハビリテーションについての相談窓口

平成15年3月

県地域リハビリテーション支援センター

対象地区	県支援センター	担当課	電話番号
全 県 域	石川県リハビリテーションセンター	指 導 課	076 (266) 2866

地域リハビリテーション広域支援センター

対象地域	広域支援センター	担当課	電話番号
小松市・加賀市 江沼郡・能美郡	石川県南加賀保健福祉センター	健康推進課	0761 (22) 0793
松任市・石川郡 河北郡	石川県石川中央保健福祉センター	企画調整課	076 (275) 2252
七尾市・羽咋市 鹿島郡・羽咋郡	石川県能登中部保健福祉センター	企画調整課	0767 (53) 2482
輪島市・珠洲市 鳳至郡・珠洲郡	石川県能登北部保健福祉センター	企画調整課	0768 (22) 2011

住んでいる地域の相談窓口

市町村名	窓口となる担当課 等	電話番号	市町村名	窓口となる担当課 等	電話番号
金 沢 市	泉野福祉保健センター	076 (242) 1131	白 峰 村	住民福祉課	0761 (98) 8000
	元町福祉保健センター	076 (251) 0200	津 幡 町	保険年金課	076 (288) 7952
	駅西福祉保健センター	076 (234) 5103	高 松 町	健康福祉課 (社会福祉センター内)	076 (281) 2940
七 尾 市	保健センター	0767 (53) 3623	七 塚 町	健康福祉課	076 (285) 2002
小 松 市	いきいき健康課	0761 (21) 8118	宇ノ気町	福祉保険課 (保健福祉センター内)	076 (281) 2940
輪 島 市	長寿保健課	0768 (23) 1136	内 灘 町	保険年金課	076 (286) 6101
珠 洲 市	福祉課	0768 (82) 7742	富 来 町	保健センター	0767 (42) 0031
加 賀 市	保健センター	0761 (72) 7865	志 雄 町	保健福祉課	0767 (29) 8140
羽 咋 市	健康福祉課	0767 (22) 1115	志 賀 町	介護福祉課	0767 (32) 0339
松 任 市	健康推進課	076 (274) 2155	押 水 町	健康福祉課	0767 (28) 5526
山 中 町	保健センター	0761 (78) 0874	田鶴浜町	住民福祉課	0767 (68) 6612
根 上 町	在宅介護支援センター	0761 (55) 8877	鳥 屋 町	保健環境課	0767 (74) 0797
寺 井 町	健康福祉センター	0761 (58) 6886	中 島 町	健康福祉センター	0767 (66) 8282
辰 口 町	健康センター	0761 (51) 6500	鹿 島 町	保健環境課	0767 (76) 1419
川 北 町	福祉課	076 (277) 1111	能登島町	健康推進課	0767 (84) 0066
美 川 町	健康福祉課	076 (278) 8123	鹿 西 町	保健センター	0767 (72) 2697
鶴 来 町	長寿福祉課	0761 (92) 1970	穴 水 町	健康福祉課	0768 (52) 3650
野々市町	在宅介護支援センター	076 (248) 8472	門 前 町	長寿支援課	0768 (42) 1111
河 内 村	住民福祉課	0761 (92) 1100	能 都 町	環境健康課	0768 (62) 2100
吉野谷村	環境福祉課	0761 (95) 5011	柳 田 村	住民福祉課	0768 (76) 1695
鳥 越 村	環境福祉課	0761 (94) 2011	内 浦 町	住民福祉課	0768 (72) 1111
尾 口 村	住民福祉課	0761 (96) 7708			

石川県地域リハビリテーション資源調査結果

(平成14年11月～12月調査)

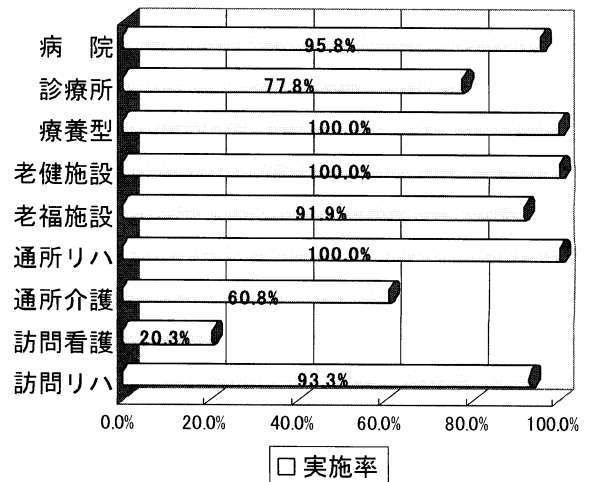
リハビリテーションの現状

① リハビリテーション医療及び機能訓練サービスの実施状況

ほとんどの施設で、リハビリテーション医療又は機能訓練が実施されていました。

しかし、急性期終了後のリハ病棟を開設している施設は少なく、2施設(4.2%)となっています。今後開設を検討していると答えたところは10施設でした。

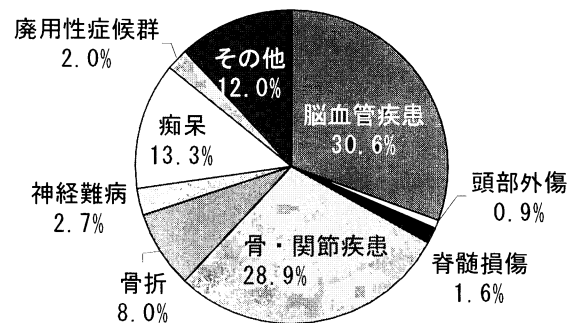
機関別リハビリテーション実施割合



② リハビリテーションの対象者は？

脳血管疾患が最も多く、次いで老化に伴う骨・関節疾患、痴呆が多い状況でした。

疾患別割合

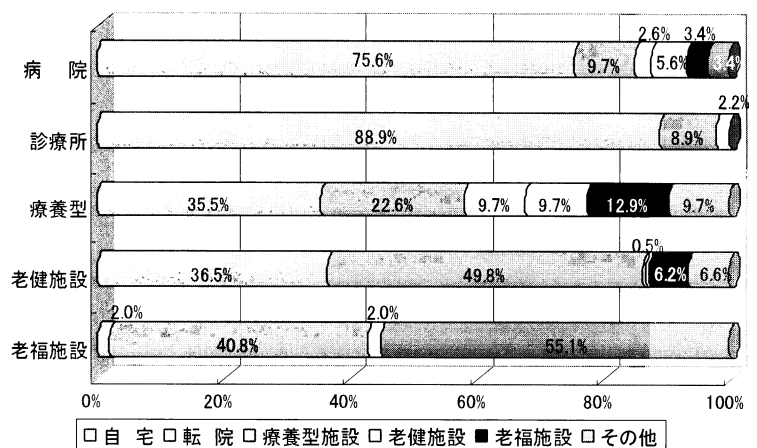


③ リハビリテーション受療後の退院・退所先

医療機関の約8割が自宅に退院し、老福施設(介護老人福祉施設)の半数が死亡による退所でした。

自宅へ帰った後、寝たきりや介護状態にならないよう、地域での在宅支援サービスの充実が大切になってきます。

各機関別退院先割合

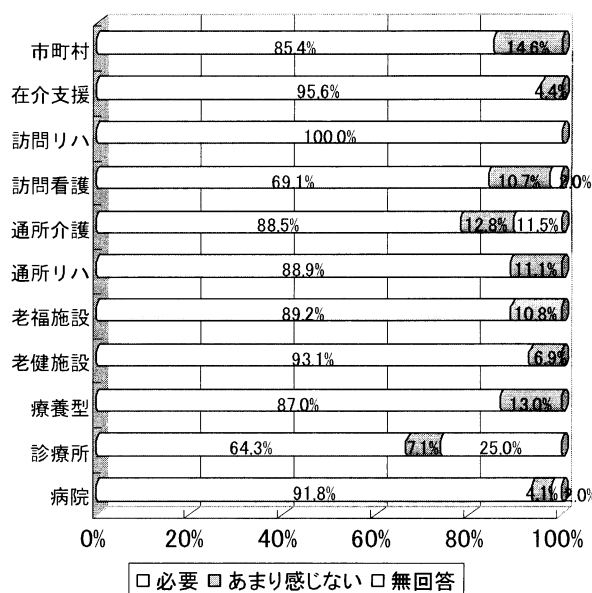


④ リハビリテーション支援計画や内容などの連絡等連携の必要性

医療、社会福祉施設等、居宅サービス事業者市町村等の約9割が、連絡等の連携システムが必要であるという回答が得られました。

何らかの患者情報の交換による一貫したリハビリテーションサービスの提供が求められています。

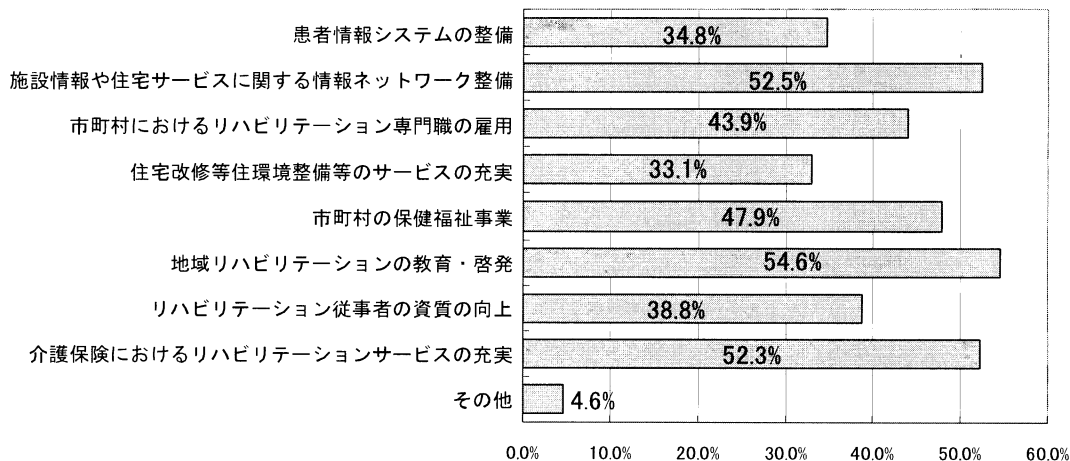
各機関別連携の必要性の割合



⑤ 地域リハビリテーションを充実していく上で必要なこと

地域リハビリテーションを充実させるには、地域リハビリテーションの考え方や支援方法などの教育・啓発が最も多く、次いで情報ネットワークの整備、介護保険でのリハビリテーションサービスの充実が求められていました。

地域リハビリテーションの充実に必要なことの割合



平成14年度研修事業実施報告

今年度は、高齢者の摂食・嚥下障害をテーマに各専門分野をトータル的に学ぶことができるように6回コースとして企画しました。各回ともとても盛況で、摂食・嚥下障害に対する関心の高さが伺われました。今後もテーマ別研修を開催していく予定ですので、皆様の御参加をお待ちしております。

(1) リハビリテーションテーマ別研修

回	開催日	参加者数	対象者	研修内容	講師
第1回	6月27日	222名	地域リハ 関係者	摂食・嚥下障害とは～嚥下のメカニズム～	金沢医科大学病院リハビリテーション科助手 河崎 寛孝
第2回	7月11日	267名		摂食・嚥下障害におけるリハビリテーション	辰口芳珠記念病院リハビリテーション技師長 白木 幸三
第3回	8月28日	267名		摂食・嚥下障害における看護ケアポイント	ナーシングホーム気の里施設長 田中 靖代
第4回	9月19日	232名		摂食・嚥下障害における嚥下障害食	金沢医科大学病院栄養部課長補佐代理 河原美智代
第5回	10月17日	233名		摂食・嚥下障害における摂食時の動作・自助具	訪問看護ステーションほのほの作業療法士 織田裕可里
第6回	11月14日	209名		摂食・嚥下障害における口腔ケア	綿谷歯科医院院長 綿谷 修一
合計		1,430名			

(2) リハビリテーション従事者研修

回	開催日	参加者数	対象者	研修内容	講師
第1回	8月3日	103名	医療関係者	総合リハビリテーション計画の立案	初台リハビリテーション病院理事長 石川 真
第2回	9月14日	59名	ソーシャル ワーカー等	ソーシャルワークの実践と理論 他職種とのコラボレーション	順天堂大学医学部附属順天堂医院ソーシャルワーカー 吉田 雅子
第3回	10月5日	57名	言語聴覚士等	嚥下障害の評価法～嚥下造影・嚥下内視鏡～	松阪中央総合病院リハビリテーション科医長 太田喜久夫
第4回	10月19日	112名	理学療法士等	肩関節のリハビリテーションの実際	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院理学療法士 山口 光圀
第5回	11月9日	43名	作業療法士等	回復期リハビリテーションの実際～身辺動作へのアプローチ～	会田記念病院作業療法士 中村 茂美
第6回	11月17日	66名	理学療法士等	整形疾患の臨床実習	済生会金沢病院理学療法士 神谷 正弘
				脳卒中片麻痺患者の臨床実習指導	石川県リハビリテーションセンター理学療法士 荒木 茂
				身体障害者のスポーツ指導	〃 リハ工学士 北野 義明
合計		440名			

(3) 地域リハビリテーション研修会

回	開催日	参加者数	対象者	研修内容	講師
第1回	12月16日 ～17日	78名	市町村保健 関係者及び 県保健福祉 センター担 当者等	地域リハビリテーション支援体制整備事業の目指すもの	石川県健康福祉部厚生政策課長 佐々木裕介
				地域リハビリテーションの考え方	帝京平成大学健康メディカル学部教授 山本 和儀
				健康寿命と地域リハビリテーション	東北大学大学院医学系研究科教授 辻 一郎
				地域リハビリテーションシステムの考え方	大阪府池田保健所長 柳 尚夫
第2回	3月18日 ～19日	78名	市町村保健 関係者及び 県保健福祉 センター担 当者等	地域リハビリテーションにおける保健活動	高知市健康づくり課主幹 吉永 智子
				目的指標に基づく政策評価の考え方	政策マーケティング企画研究所 主任研究員
				介護予防事業における企画推進の考え方	
合計		156名			

(4) 身体にあった福祉用具の選び方研修（福祉用具活用研修）

回	開催日	参加者数	対象者	研修内容	講師
第1回	11月26日	34名	市町村保健 関係者及び 介護支援専 門員等	身体拘束予防の取り組み	特別養護老人ホーム夕陽が丘苑主任介護職員 北村 里美
				生活の中での車いすの考え方	石川県リハビリテーションセンター作業療法士 村井 千賀
				モジュラー型車いすの考え方	南加賀保健福祉センター作業療法士 濱 昌代
第2回	11月28日	48名		福祉用具の正しい使い方	能登中部保健福祉センター作業療法士 千田 茂
第3回	12月5日	77名		座ることの理解	石川県リハビリテーションセンター理学療法士 古矢 泰子
				生活の中での車いすの考え方	” 作業療法士 村井 千賀
合計		159名			

(5) 福祉用具適合研修

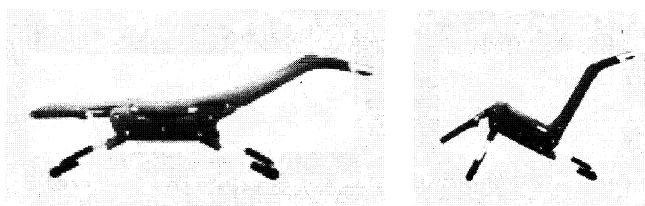
回	開催日	参加者数	対象者	研修内容	講師	
第1回	9月7日	68名	保健・福祉・ 医療の作業療 法士・理学療 法士等	車いす適合・製作についての考え方 Part 1	石川県リハビリテーションセンター作業療法士 寺田 佳世	
第2回	9月28日	66名		”	” Part 2	” リハ工学士 北野 義明
第3回	10月19日	45名		車いすの処方の実践	”	” 理学療法士 平木 清喜
合計		179名				

平成14年度に加わった福祉用具の紹介

■入浴関連用具			
シャワー椅子	アジャスタブルチェア-LECKY	サイズ 4	テクノグリーン(株)
ホイス吊り具	6点吊りシート		(株)ウェルネット研究所
■移乗用具・移動機器・車いす			
移乗ベルト	フレキシムーブ		ベルテックジャパン
歩行器	交互歩行器(ライトブラウン)	MRB-02022	ミキ(株)
ティルト&リクライニング車いす	ティルト&リクライニング車いすKX	KX22-42EL	(株)カワムラサイクル
リクライニング車いす	リクライニング車いす	MLCSW-48DX	ミキ(株)
車いすクッション	ゾイド	#36600	(株)ユーキトレディング
車いすクッション	テンピュールシートクッション		テンピュールジャパン(有)
■入力スイッチ・会話装置			
入力スイッチ	筋電・眼電スイッチ EMOS		(株)テクノスジャパン
代替マウス	トラックIR		五大エンボディ(株)
ワイヤレス会話装置	よべる80	NRM-80	(株)エクセルエンジニアリング

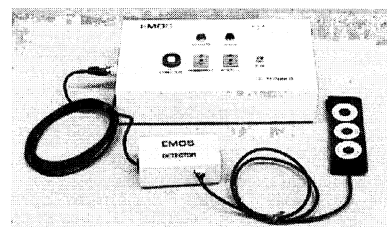
■シャワー椅子 アジャスタブルチェア LECKY

座面・背面をさまざまな角度（フルリクライニングも可能）に設定できるシャワー椅子です。また、軽量で持ち運びに便利であり、通気性も良いため、夏場の簡易椅子や携帯用椅子としても活用できます。



■入力スイッチ 筋電・眼電スイッチ EMOS (エモス)

まぶたや眼球が動くか、身体のどこかの筋がわずかでも動けば使用できるスイッチです。環境制御装置や意志伝達装置に接続することで、ベッドやテレビ等の身の周りの機器を操作したり、文章作成や会話をすることができます。



『高齢者施設での車いすの適合』について冊子作成

高齢者や障害がある方が良肢位を保ち、身体拘束を予防するためには関係職員が本人の身体能力・生活状況にあった車いす等を選定する事が大切です。

良肢位を保つ事で、関節拘縮や筋力低下等の身体機能低下や心肺機能低下及び適切な座位を確保出来ない事による嚥下障害等を予防することにつながります。

そこで、身体に合った車いすを選定及び活用するための正しい知識とクッション等を活用した適合方法を普及する目的で、県保健福祉センターと当センターが、H14年11月～H15年3月にかけて、6カ所の施設で入所されている方の協力を得て、職員の方と共に車いすの座位に付いての適合をさせて貰いました。

各施設では、足が車いすのフットレストに届かない方には、段ボールの箱を挟んだり、座幅が広すぎて斜め座りを増長している方には脇に座布団やタオルケットを挟んだりと色々な工夫がなされ、職員の方の苦勞の跡を痛切に感じました。

しかし、工夫はしても、斜め座りの方、滑り座りの方、関節拘縮された方、座布団等で支持はしていても見るからに大きすぎる車いすで不安定な座りになっている方をどうしたら良いかと慢性的な悩みを持っていらっしゃいました。

車いすの適合するにあたって、施設には本人にあった車いすやクッションが用意されているわけではないので、施設にある材料で、出来るだけ良肢位になる様に作業療法士と保健師と施設職員が工夫しながら行いました。

右の写真は、左が適合前 右が適合後の1例です。

適合後、誤飲が少なくなった、足の浮腫がひいてきた、褥瘡が小さくなった、姿勢を直す回数が減った等の意見が聞かれ、良肢位を保つことは、本人の生活を変えるだけでなく、介助の軽減につながっていく様です。

その実践結果をひろく知って欲しいと思い冊子を作成しました。関係機関には送付しますので、参考にして下さればと思っております。

最後に、協力頂いた施設の方に感謝します。どうも有り難うございました。



適合前



適合後

編集・発行 石川県リハビリテーションセンター
〒920-0353 金沢市赤土町ニ13-1
TEL (076) 266-2866 FAX (076) 266-2864
E-mail ipre@po.incl.ne.jp
ホームページは「石川県」版に開設
<http://www.pref.ishikawa.jp/eisei/rihabiri/index.html>

